



# 未来ある子どもたちのために

## 新しい学校のかたち 小中一貫教育を推進します

全国的に問題となっている少子高齢化と人口減少。この加東市でも、今後、大きな課題となることが予測されます。そうした社会環境の中、これからの地域・国を担う子どもたちに、優れた学習環境を維持しながら、よりよい学びと成長を提供し続けていくために、加東市は、新しい学校をつくりまします。

新たにつくる学校は、小中一貫校。『10年、15年先の加東の子どもたちが、大きな夢を持ちながら自らの学びや他者との学びあいによって心身とも、たくましく成長できるように』と計画する、新たな教育のかたちです。



▲東条西小学校1年生のみなさん。計画案のとおりであれば、中学2年生の時点で、東条地域につくる小中一貫校の生徒になります。

### 小中一貫校の利点

小中一貫校の主な利点として、次のようなものが挙げられます。

- ① 児童生徒の成長を見通した義務教育が行いやすい。
- ② 小・中学校の教職員が互いに認め合い、学び合うことで『義務教育9年間で児童生徒を育てる』という意識が共有できる。
- ③ 義務教育9年間の系統性・連続性のある教育課程（前期4年・中期3年・後期2年など）を編成することで、学習意欲の向上や学力の向上が期待できる。
- ④ 小・中学校に配置された教職員が、互いに免許を有する教科において乗り入れ授

### 中1ギャップとは？

子どもたちが思春期に入り、学習内容が高度化する中学校において、小学校に比べ、授業の理解度の低下、問題行動等の増加といった教育課題を意味します。

### 市内小学校の単学級等の状況

加東市内には現在9つの市立小学校がありますが、そのうち6つの小学校は単学級や複式学級の学校です。単学級や複式学級の学校は、これまで、少人数を活かした特色ある教育活動を展開し、小学校同士の合同学習や行事等で活発に連携してきましたが、多様なグループ学習やチーム編成がしにくく、人間関係の固定化などの課題があります。



生この日常のふれあいを通じ、様々なことを教えることで自尊心を高めることができる。

子どもたちによりよい学びを提供できることに加え、『中1ギャップ』や単学級による人間関係の固定化等、小・中学校を取り巻く課題を解消できる点も、子どもたちの育成にとって大きな魅力です。